

連携先世界遺産： 清水寺

京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

(本科目が取り組んだ課題・改善事項等)

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、
守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

■受講生

石川 善規 (立命館大学・法学部・3回生)、梅垣 知隼 (立命館大学・法学部・2回生)、川添 緑夏 (京都女子大学・現代社会学部・2回生)、川戸 咲智子 (立命館大学・理工学部・1回生)、古川 達也 (立命館大学・理工学部・1回生)、小林 里樹斗 (立命館大学・理工学部・1回生)、鈴木 一帆 (立命館大学・生命科学部・4回生)、長谷川 綾香 (立命館大学・文学部・4回生)、幅 彩水 (立命館大学・理工学部・1回生)、晴間 栞菜 (立命館大学・産業社会学部・4回生)、日比野 景 (立命館大学・国際関係学部・3回生)、平村 和花 (立命館大学・経済学部・3回生)、前田 桃花 (立命館大学・理工学部・1回生)、宮本 莉沙 (立命館大学・理工学部・3回生)、山本 絵未 (立命館大学・産業社会学部・4回生)、若月 祐香 (立命館大学・文学部・2回生)、YE Rui (立命館大学・映像学部・4回生)

■担当教員

大窪 健之 (立命館大学・理工学部・教授)

活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間400万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院の1つです。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備を座学とフィールドワークを通じて学びます。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っています。また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開しています。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行い、境内と周辺地域の災害リスクに関するグループ調査を行います。最後に「災害図上訓練DIG」を行い、文化遺産を核とした地域の災害脆弱性と対策について幅広い観点から考察し、グループごとに発表します。



設備見学



フィールドワーク



災害図上訓練



成果発表

◆主な活動

- | | |
|---|--|
| <p>2021. 9. 5 講義ガイダンス+歴防研究所の活動紹介</p> <p>2021. 9. 5 清水寺とその歴史について</p> <p>2021. 9. 5 清水寺と地域の防災活動に向けた取り組み</p> <p>2021. 9. 5 清水寺とその災害について 1
(災害史を古文書から読み解く)</p> <p>2021. 9. 6 境内見学、設備見学および実技体験
(防火水槽、ドレンチャー、放水銃等)</p> <p>2021. 9. 6 清水寺とその災害について 2
(近年の災害とその対策：地震・土砂・火災)</p> <p>2021. 9. 6 文化遺産の保存と管理について</p> <p>2021. 9. 6 清水寺周辺地域の防災水利整備事業</p> | <p>2021. 9. 7 フィールドワーク 1 *各地において事業の説明
(市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc)</p> <p>2021. 9. 7 フィールドワーク 2 *グループ毎に現地調査
(地域の災害危険性、防災資源、etc)</p> <p>2021. 9. 7 災害図上訓練 1 (実技・ワークショップ実施)</p> <p>2021. 9. 8 災害図上訓練 2 (発表+総括・講評)</p> <p>2021. 11. 5 成果報告会に向けた具体化の作業 1</p> <p>2021. 11. 13 成果報告会に向けた具体化の作業 2</p> <p>2021. 11. 19 成果報告会に向けた具体化の作業 3</p> <p>2021. 12. 03 発表動画の作成</p> <p>2021. 12. 12 成果発表</p> |
|---|--|

活動の成果

本講義の中で、受講生が着目した「清水地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通して、各班からは【表1】のような多くの問題点が挙げられました。その中でも特に「地震発生直後の火災・延焼」や「災害時における観光客や地域住民の逃げ遅れ」が懸念され、重大な問題であることが認識されました。そして、こうした問題を念頭に災害図上訓練（DIG）を行った結果、初期対応を行うためにも、円滑な避難を実現させるためにも、「災害（火災）発生箇所の把握」を、どのように行うかが課題点として挙げられました。このように、文化財や地域を守るために、受講生自身が地域の災害危険性について調査・考察を行うことで、文化遺産を守りつつも、次世代へと伝えることの実情と難しさをより学ぶことができたのではないかと思います。

－ 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 － 【表1】

- 1班：外国人観光客の避難誘導が難しい、停電が発生した場合など夜間の避難誘導が難しい
- 2班：消火栓の設置場所が分かりづらい、観光客で混雑し避難が難しい、避難場所が分かりづらい
- 3班：木造住宅が多く短時間で燃え広がりが生じやすい、急な坂や階段が多く高齢者の避難が難しい
- 4班：街頭の地図が古いうえ少ない、避難場所を示す看板が見にくい、避難経路が分かりづらい



－ 災害図上訓練（DIG）により明らかになった防災上の課題 －

- 災害（火災）発生箇所の把握

本講義の中で、受講生が提案した「防災上の課題における対策」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの対策アイデアが挙げられました。

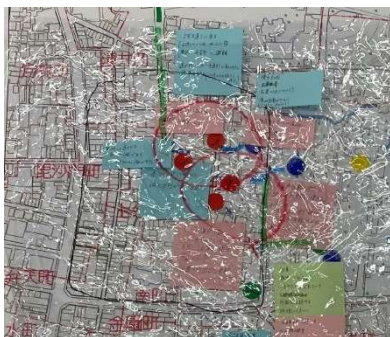
－ フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 － 【表2】

- 1班：外国人向けの避難マップ作成、誘導拠点として人力車待機所を活用、フットライトの設置
- 2班：プザー付消火栓の設置、自動販売機による音声誘導案内、UAVやGoogle Mapsを活用した避難誘導
- 3班：街灯に緊急ボタン・スピーカー機能を搭載、二世帯一組避難、避難指示のレベル下げ、分散避難
- 4班：避難ルート記載された地図への更新と増設、音声機能付き地図や看板の設置

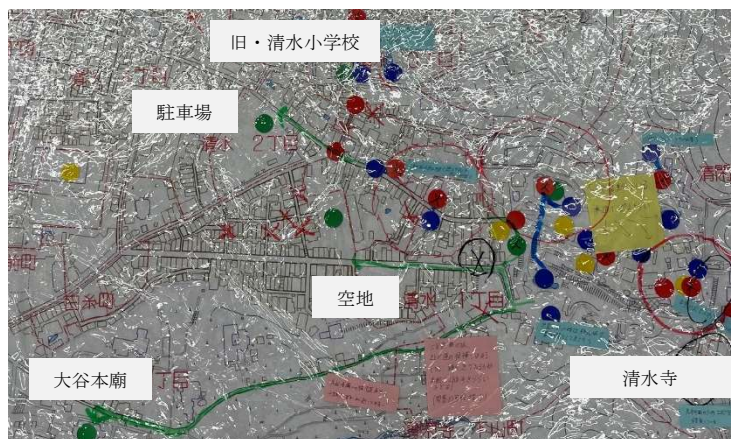
これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われまます。



▲景観に配慮された消火栓



▲危険箇所をプロットした地図（災害図上訓練より）



▲提案された避難ルート



活動を振り返って

- 四日間の講義を通して、観光地としての視点しか持ってこなかった場所を災害というフィルターを通してしてみると、リスクが非常に大きな場所であることに気づきました。これまで旅行の際には、観光地の避難先やホテルの避難経路などの確認をしたことがありませんでしたが、今後は、ホテルの部屋に入ったときはホテルの避難経路や非常口の場所は確認する習慣を癖づけていきたいし、観光地で地図案内を確認する際は避難場所の位置をさっと確認する癖をつけていこうと思います。
- 普段の観光では、防災のことは全く意識せず、その場の風景や雰囲気等を楽しむことに集中しているので、本授業は非常に新鮮なものでした。フィールドワークでは、まるで「ブラタモリ」のような、そこら中に隠された「防災」要素を見つける楽しさを感じることができました。今後、観光名所に訪れた際には、どのような防災対策がなされているのか、どのような防災上の問題点が存在するのか、を意識しながら観光を楽しみたいです。
- フィールドワークや災害図上訓練を通して、「防災対策において完璧は無く、既存の課題を解決しても、更に課題が出てくる」という防災の難しさを学ぶことができました。課題を1つ1つ解決していくことで、自ずと地域の防災力は向上していくとは思いますが、決して100%の安全には至らないことを学ぶことができました。
- 災害図上訓練を行い、十分だと思っていた清水寺の火災対策にも課題が多数あると気づくことができました。実際に周辺を見て回るだけでは気づくことができない問題点を発見することができ、図上訓練の意義を学ぶことができました。
- 災害が起きても身を守るための冷静な行動をとるためには、事前に危険な場所や対策を知って普段から備えておく必要があることを学びました。この四日間の授業を通して、防災への心構えを日頃から持つことの大切さを改めて実感しました。
- 清水寺やその地域の防災について考えることきっかけに、自分の住む地域の防災についても興味を持つようになりました。
- 「防災」に加えて、清水寺の本堂や消火設備、周辺地域を含めた歴史や慣習など、普段は中々知ることがのできない様々な情報を得ることができました。特に先生方による境内のご説明を受けながら、実際に見て回るというのは非常に貴重な経験で、清水寺に対する愛着心が高まりました。
- 学びの舞台が世界遺産である清水寺であることに加え、大学ではオンライン授業が多く、フィールドワークや実地演習で学ぶ機会は少なかつたため、非常に貴重で新鮮な体験でした。

担当教員からのコメント

大窪 健之

今年度も昨年度に続いてコロナ禍の中での実施となりましたが、日程の限られた夏季集中形式で、かつ演習が主体となるPBLプログラムのため、感染症対策を徹底する中での難しい運営となりました。そんな状況であっても、受講者全員の努力と、現場で支援をいただいた森清顕先生をはじめ清水寺関係者様と、明日の京都事務局とTAをはじめサポートいただいた方々のご尽力により、一人の発症者を出すことなく無事終了することができたことに、心より感謝を申し上げます。さらに天候にも恵まれ（過年度には台風で警報が発令された経緯も…）、受講生の皆さんも現場の視察や調査、ワークショップやプレゼン作成に生き生きと取り組んでくれました。受講生の皆さんがこの学びを活かして、近い将来各地で歴史都市の防災計画づくりに取り組んでくれることを期待しています！

活動資料



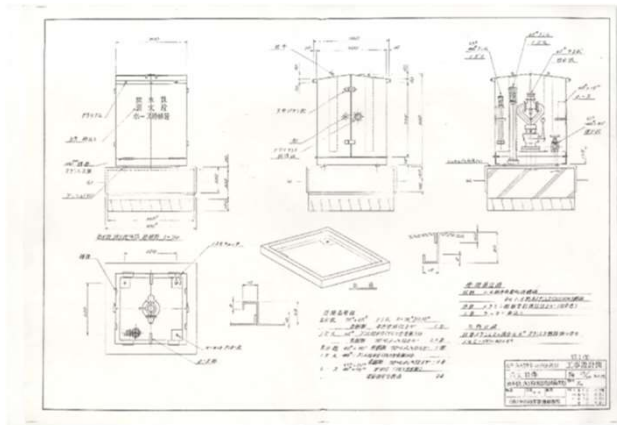
▲僧侶からの貴重なお話を直に聞き、文化遺産の価値と重要性を学んだ。



▲境内見学



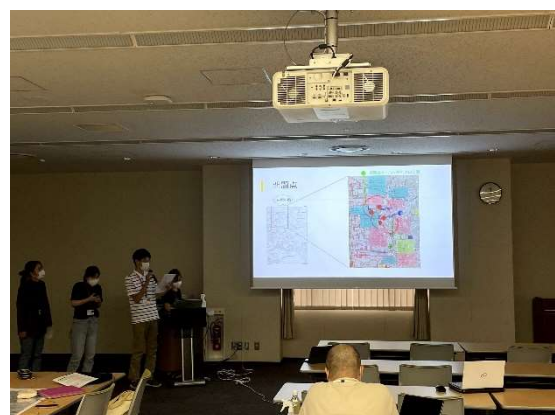
▲消防設備見学・実技体験



▲消防設備の図面



▲災害図上訓練により、地域の災害危険性を明らかにした。



▲成果発表